

**令和3年度における
読書活動推進施策について
(報告)**

令和4年5月

秋田県読書活動推進本部

目 次

I	はじめに	1
II	第3次基本計画の概要と施策推進状況	2
III	読書活動推進のための施策	3
1	家庭における読書活動の推進	
	(1) 県立図書館の利用促進に向けた体制の整備	3
	(2) 子どもの読書習慣づくり	5
	(3) 児童会館での子どもの読書活動の推進	6
	(4) 読み聞かせにお薦めの絵本の紹介	6
	(5) 生涯学習としての読書活動の奨励	6
	(6) 高齢者などへの読書支援	7
	(7) 「あきたブックネット」による情報発信	7
2	学校における読書活動の推進	
	(1) 幼稚園・保育所・認定こども園等	7
	(2) 小学校・中学校・高等学校等	8
	(3) 学校図書館	11
3	地域・職場における読書活動の推進	
	(1) 市町村	12
	(2) 民間団体	14
4	関係機関等との協働による読書活動の推進	
	(1) 秋田県読書活動推進連絡協議会の充実	15
	(2) 視覚障害者等の読書環境の整備の推進	16
	(3) 大学図書館と県立図書館の連携強化	17
	(4) 県内の大学等との連携	17
	(5) 外部機関等と連携した図書館利用促進	17
	(6) 「県民読書の日」の啓発	18
	(7) 「秋田県読書フェスタ」の開催	18
	(8) 県民の寄贈によるリサイクル文庫の普及	19
	(9) 高齢者への読書活動推奨	19
	(10) 書店団体等と連携した読書活動の推進	19
	(11) 雑誌スポンサー制度の充実	20
5	指標・実績一覧	21

I はじめに

読書活動は、県民が人生を豊かに生きる上で大切なものであり、文化的で豊かな社会の構築にも寄与することから、県では、「秋田県民の読書活動の推進に関する条例」（以下「条例」という。）を制定し、平成22年4月1日から施行している。

また、条例に基づき、平成23年3月に「秋田県読書活動推進基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定し、5年ごとに改定しながら、読書活動の推進に関する施策を総合的・計画的に進めている。

本報告は、条例第4条第2項に基づき、令和3年度に第3次基本計画により実施した施策を議会に報告するため、その概要を取りまとめたものである。

○ 秋田県民の読書活動の推進に関する条例【抜粋】

（県民読書活動推進基本計画）

第四条 県は、県民の読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、県民の読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「基本計画」という。）を策定するものとする。

- 2 県は、毎年、基本計画により実施した施策を議会に報告するものとする。
- 3 県は、必要があると認めるときは、基本計画を変更するものとする。

《 読書活動推進体制 》 令和4年4月1日現在

● 秋田県読書活動推進基本計画の進行管理

秋田県読書活動推進本部 《知事を本部長とし、各部局長で構成》

● 施策の一体的推進

秋田県読書活動推進連絡会
《庁内関係12課所で構成》

総合政策課	次世代・女性活躍支援課	
長寿社会課	障害福祉課	
教育庁総務課	幼保推進課	義務教育課
高校教育課	特別支援教育課	生涯学習課
県立図書館	生涯学習センター	

● 市町村との協働による推進

秋田県読書活動推進連絡協議会
《県と25市町村で構成》

市町村企画担当課
市町村教育委員会読書活動推進担当課
県企画振興部総合政策課
県教育庁総務課
県教育庁生涯学習課

◎ 事務局

〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号

秋田県読書活動推進本部（秋田県企画振興部総合政策課県民読書推進班）

TEL：018-860-1216

FAX：018-860-3873

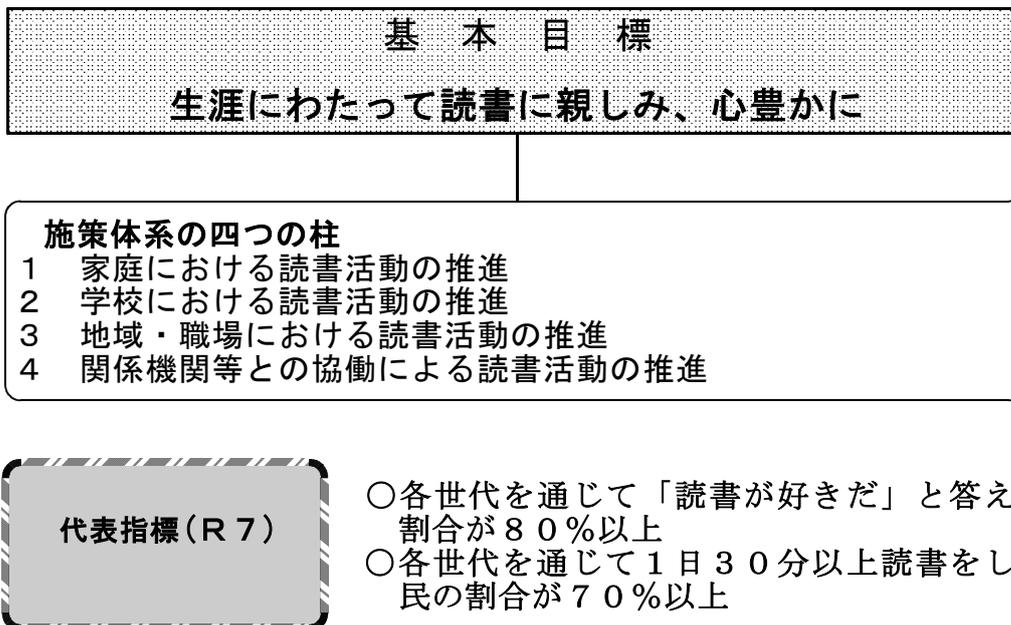
E-mail：seisaku@pref.akita.lg.jp

*公式ウェブページ「あきたブックネット」

<http://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/31730>

Ⅱ 第3次基本計画の概要と施策推進状況

1 第3次基本計画の概要



2 施策推進状況

- 県では、条例に基づき、第1次基本計画（平成23年度～27年度）により、県民の読書活動の推進に取り組み、「県民読書の日」の制定や県民参加の読書活動を展開した。
また、市町村立図書館や公民館図書室、学校図書館を拠点とする地域の読書環境の充実に努めたほか、全市町村で「子ども読書活動推進計画」を策定するなどの成果を上げてきた。
- 第2次基本計画（平成28年度～令和2年度）では、「家庭」、「学校」、「職場」、「地域」という県民の生活の場に応じて、県民の共感を高めながら施策を展開し、読書環境の整備としてスーパーやコミュニティスペースなど県民の身近な所に図書コーナーを設置する取組や、人づくりとして読書活動に携わるボランティアの育成などを進めた。
また、県公式ウェブサイトやSNS等を活用して読書に関する様々な情報を発信し、県民の読書意欲を喚起した。
- 第3次基本計画（令和3年度～7年度）では、読書は習慣付けが重要であることから、特に子どもの読書活動を積極的に推進し、生活の様々な場面で気軽に読書をすることができるよう環境を整備するなど、県民のライフステージ等に応じて読書に親しむ環境を整え、基本目標である「生涯にわたって読書に親しみ、心豊かに」の達成に向けた施策を展開する。

Ⅲ 読書活動推進のための施策

1 家庭における読書活動の推進

(1) 県立図書館の利用促進に向けた体制の整備

① 各世代に対応した読書環境の整備

子育て中の親を対象とした「子育て情報コーナー」には大人向けの本以外に乳幼児向けのCDや絵本を置いたほか、中・高校生を対象とした「teens'コーナー」には中・高校生でも十分に読むことができる一般向け図書を置くなど多様な読書環境を提供した。

また、健康情報や年金・相続といった生活相談関連図書を置いている「生活支援コーナー」の中に、シニア層向けの趣味等の図書を集めた「シニア」コーナーを設け、シニア世代はもちろん、その家族等にとっても関心が持てるコーナーづくりをするなど、各世代の読書の幅を広げ、図書館利用を促進した。

❖参考DATA

県立図書館等の年間購入冊数：(R3) 15, 116冊

県立図書館等の新規登録者数：(R3) 2, 304人

県立図書館等の年間個人貸出冊数：(R3) 378, 795冊



▲子育て情報コーナー



▲teens'コーナー



▲生活支援コーナー(シニア)

② 県民の読書ニーズに対応できるサービス機能の強化

新型コロナウイルス感染防止の観点から、対面でのレファレンス・サービス※は休止しているが、県民の多様な読書ニーズに対応するため、各分野の参考資料等の充実を図り、電話やファックス等で寄せられるレファレンスに的確に対応できるよう、職員研修を実施し体制の整備を図るなど、レファレンス・サービス機能の強化に努めた。

※レファレンス・サービス

図書館で、資料・情報を求める利用者に対して行われる文献の紹介・提供などのサービス。

❖参考DATA

「レファレンス・サービスを知っている」と答える利用者の割合

：※利用者アンケートは令和4年度に実施予定（隔年実施）

「レファレンス・サービスに満足している」と答える利用者の割合

: ※利用者アンケートは令和4年度に実施予定（隔年実施）

③ 秋田県立図書館デジタルアーカイブの活用促進

県内7機関が所蔵している資料等の情報を「秋田県立図書館デジタルアーカイブ※」により一元的に検索できるようアップロードを進め、県民への情報提供サービスを行った。

※秋田県立図書館デジタルアーカイブ

秋田県立図書館、あきた文学資料館、博物館、近代美術館、埋蔵文化財センター、生涯学習センター、公文書館の全7施設が所蔵する資料の目録や画像情報を一元的に検索できるポータルサイト。

❖参考DATA

登録データ数：（R3）611,992件（累計）

閲覧件数：（R3）25,450件



◀秋田県立図書館デジタルアーカイブ

④ ウェブサイトやSNSを活用した情報発信

県立図書館のサービスやイベント等の情報を、ウェブサイトやFacebookを活用して定期的に発信し、図書館の利用促進を図った。

また、新たにYouTubeチャンネルを開設し、県立図書館が所蔵する貴重資料や図書館内の紹介動画を作成して配信し、遠方の方や図書館に直接来館できない県民向けに情報発信を行った。

❖参考DATA

県立図書館ウェブサイトのアクセス数：（R3）241,585件

県立図書館Facebookページのフォロワー数：（R3）152人



▲県立図書館ウェブサイト



▲YouTubeチャンネルでの動画配信

◀県立図書館Facebookページ

(2) 子どもの読書習慣づくり

- 県立図書館の「えほんのへや」「調べ学習コーナー」では季節に合った月替わりの絵本展示や、こどもの読書週間（4/23～5/12）や夏休み期間に合わせた児童書の展示を行い、子どもとその保護者の図書館利用を促進した。

また、利用しやすいよう書架の見出しや排架に工夫をしたり、普段は手に取られにくい本を展示資料として活用し、様々な本との出会いを提供した。

- 新型コロナウイルスの影響で休止していた県子ども読書支援センター※支援員（読書ボランティア）によるおはなし会は、密を避け、換気できる会場を用意し、3回実施した。

子ども読書アドバイザー等による対面による読書相談は休止しているが、電話やメールを中心とした読書相談には積極的に対応した。

また、支援員が作成した年齢別・テーマ別のお薦め本リストを更新して提供するなど、子どもの年齢や興味・関心に応じた読書ができるよう、子どもの周りにいる大人に対しても支援を行った。

※県子ども読書支援センター

子どもの読書活動に関する広報、啓発、調査研究活動や各種イベントの開催を行うことを目的に県立図書館内に設置されている。「えほんのへや」で子どもの読書に関する相談を受け付けるほか、県内の読書ボランティア団体や学校図書館、幼稚園・保育所・認定こども園等を対象に読み聞かせ資料の貸出等も行っている。

❖参考DATA

読書相談件数：（R3）133件

おはなし会実施回数：（R3）3回

おはなし会参加人数：（R3）31人



▲支援員によるおはなし会



▲テーマ別お薦め本リスト

- 本への興味や関心を高めるため、小学4～6年生9人を対象に、おすすめ本のPOPの作り方を学ぶ「POP作り研修講座」を実施した。

参加者は、東京の講師からオンラインでアドバイスをもらい、本を紹介する楽しさを味わった。



POP作り研修講座▶

(3) 児童会館での子どもの読書活動の推進

県子ども読書支援センターが県児童会館図書室に児童書の貸出を行ったほか、子ども読書アドバイザーが定期的に県児童会館図書室の運営に関する相談等の支援を行い、子どもの読書に親しむ環境の整備を行った。

❖参考DATA

資料貸出冊数：(R3) 699冊

(4) 読み聞かせにお薦めの絵本の紹介

親子の読み聞かせを通じて読書の楽しさを広げるため、0歳から小学校低学年までの児童を対象とした読み聞かせに適した絵本を選定し、デジタルブック「あふれちゃんのえほんばこ」等により推奨するとともに、毎週土曜日の秋田魁新報読書欄やあきたの結婚・子育て応援情報ウェブサイト「いっしょにねっと。」、Twitter「あきたブックネット」で紹介したほか、県児童会館の図書室で選定絵本の貸出を行った。



◀県児童会館2F図書室にて貸出を行っている絵本

◀あふれちゃんのえほんばこ2021

(5) 生涯学習としての読書活動の奨励

県民の総合的な生涯学習講座「あきたスマートカレッジ」の中で、生涯学習としての読書活動を奨励するため、『県民読書おすすめ講座』（全5回）や『北条常久特別講座～昭和時代Ⅱ高度成長と混乱の社会を駆け抜ける文学者達～』（全4回）を開催した。

また、講座受講者が中心となって発足した自主学習グループが、合わせて5回の自主企画講座を開催した。



▲県民読書おすすめ講座



▲北条常久特別企画講座

(6) 高齢者などへの読書支援

読書が困難な障害者等をサポートするボランティア活動として、県立点字図書館における音訳・点訳の活動や理解の促進に関する取組について、Twitterを活用して周知した。

また、インターネット環境がない高齢者などであっても「ふるさと秋田文学賞」の受賞作品を読むことができるよう、作品本文のコピーを郵送するサービス(送料は本人負担)を行い2件の利用があった。

❖参考DATA

電話(対面)朗読ボランティア活用者数:(R3)6人

(7) 「あきたブックネット」(ウェブサイト、SNS)による情報発信



家族で読書を楽しみ、読書習慣の形成と家族間のコミュニケーションを図るため、小学校新入生を対象として配付してきた「家族で読書おすすめ50選vol.2」パンフレットをウェブサイトに掲載し、家族で行う読書活動を推奨した。

また、若者を中心とした県民の読書意欲を喚起するため、Twitterやウェブサイトを活用し、本に関連した特長のある取組を行っている人物や県内公立図書館の情報を紹介した。

◀本に関連したお店の取組などをTwitterで紹介

❖参考DATA

Twitter「あきたブックネット」のアクセス数:(R3)829,910件

2 学校における読書活動の推進

(1) 幼稚園・保育所・認定こども園等

① 幼稚園・保育所・認定こども園等における読み聞かせの推奨

幼稚園・保育所・認定こども園等の訪問時において、教材としての「絵本」の意義や、子どもが喜んで「絵本」に関わるための環境構成について適宜助言を行った。

新規採用者に対しては、「豊かな心を育む絵本の読み聞かせ」と題し、読書や読み聞かせに関する研修を実施した。

子ども達の発達や興味に合わせた絵本を選び、その絵本に込められた作者の思いや仕掛けを理解しながら読み聞かせを行うことで、絵本の良さをより伝えることができることなど、読み聞かせに対する理解を深められるよう支援した。

◀新規採用者研修

- 開催状況 令和3年11月8日（月）オンラインでの開催
- 講師 田丸 美穂氏（県子ども読書支援センター・子ども読書アドバイザー）
- 参加者数 182名

❖参考DATA

新規採用者研修受講者の肯定的評価：（R3）90%

（2）小学校、中学校、高等学校等

① 子どもの発達の段階に応じた読書活動の推進

ア 小・中学校における取組

教科等の学習における学校図書館の活用や教育活動における読書活動の充実が図られるよう、学校訪問等により指導・援助を行った。

また、ボランティアによる読み聞かせやビブリオバトル、書籍の紹介、学級文庫の活用等、児童生徒の発達の段階に応じた読書活動支援に関わる先進的な取組について情報提供を行うことで、各学校での読書活動を支援した。

❖参考DATA（令和3年度秋田県学習状況調査）

「読書が好き」と答える児童の割合（小学校6年生）：（R3）80.6%

週に1回以上学校図書館等に行く児童の割合（小学校6年生）：（R3）16.1%

イ 高等学校における取組

読書への意識啓発と図書委員会※の主体的な活動の充実を図るとともに、家庭科の学習等において、絵本の読み聞かせの実習を奨励するなど、将来、親になったときに子どもに読み聞かせをすることの意義について理解を深めた。

図書館活性化モデル校の先進的な取組について、協議会等で情報共有を図るとともに、学校訪問の機会に情報提供を行った。

※図書委員会

生徒会活動の一つで、学校図書館に関する活動を行う委員会。

❖参考DATA

1か月に1回以上学校図書館を利用する生徒の割合：（R3）19.4%

1か月に本を1冊以上読む生徒の割合：（R3）56.6%

ウ 特別支援学校における取組

○特別支援学校における読書環境の整備

学校訪問等の機会に、読書環境の重要性について情報提供し、更なる取組の実施を働きかけた。

各校では、学部ごとに図書コーナーを設置し、新しい本やおすすめの本、大型絵本等を配置するなど、興味・関心を高める読書環境の工夫をしたほか、県立図書館等のセット貸し出しを利用して図書の充実を図った。

また、県立図書館職員の学校訪問により、本の配置や蔵書管理などについてアドバイスを受けた学校もあった。



◀企画展示

図書委員会が本の紹介のポップも作成し、掲示されている。

❖参考DATA

校内の読書環境の整備と改善に毎月取り組んでいる学校の割合：(R3) 86.7%

○特別支援学校における読書活動の充実

各校では、読書月間や読書週間等を設定し、児童生徒が本に触れる機会を積極的に設けたほか、全校読書タイムを設けたり、校内放送やポスター等で本の紹介を行ったりすることで、読書活動への意欲付けを図った。

また、図書委員会や地域のボランティアによる読み聞かせを行うなど、本に親しむことができるように工夫した。

❖参考DATA

図書を活用した他の学校や地域の人々との交流により、

本に親しんだ幼児・児童・生徒の割合：(R3) 30.0%

② 「ビブリオバトル」の普及と大会開催

中高生を対象に、コミュニケーションによって本の面白さや魅力を共有し、読書のきっかけづくりとするため、発表者（バトルー）が紹介したお薦め本の中から、「一番読みたくなった本（チャンプ本）」を参加者全員が投票で決める「ビブリオバトル」を行った。

10月から11月にかけて県内7か所で地区大会を開催し、11月23日に地区大会を勝ち抜いた生徒たちによる県大会を開催した。

校内予選を行う学校もみられ、コロナ禍においても例年並みの参加があった。



◀ビブリオバトル秋田県大会に出場した中高生バトルー



◀美の国あきたネット内「ビブリオバトル in AKITA」

○開催状況

〈地区大会〉 出場者合計 80名（中学生49名、高校生31名）

地区	月日	会場	出場者数
北鹿	10月30日（土）	大館市北地区コミュニティセンター	中学生8名、高校生4名
能代	11月3日（水・祝）	能代市立能代図書館	中学生6名、高校生6名
秋田	10月16日（土）	ふれあーるAKITA	中学生5名、高校生9名
由利本荘	10月17日（日）	由利本荘市文化交流館カダーレ	中学生2名、高校生4名
大仙	10月23日（土）	大仙市大曲交流センター	中学生8名
横手	10月24日（日）	横手市交流センターY ² ぷらざ	中学生10名、高校生2名
湯沢	10月31日（日）	湯沢文化会館	中学生10名、高校生6名

※各地区大会の運営を行う高校生による実行委員は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により募集を中止。

〈秋田県大会〉

11月23日（火・祝） 秋田拠点センターアルヴェ

各地区大会代表の13名（中学生7名、高校生6名）が出場

中学生チャンプ、高校生チャンプはビブリオバトル全国大会（活字文化推進会議主催）への出場権を獲得

○ビブリオバトル 2021 in AKITA（秋田県大会）で紹介された本

【中学生の部】

「あたりまえポエム 君の前で息を止めると呼吸ができなくなってしまうよ」

（氏田 雄介／著 講談社）**チャンプ本**

「十角館の殺人 新装改訂版」（綾辻 行人／著 講談社）**準チャンプ本**

「残像に口紅を」（筒井 康隆／著 中央公論新社）

「牧野富太郎 日本植物学の父」（清水 洋美／著 汐文社）

「嫌われる勇氣」（岸見 一郎・古賀 史健／著 ダイヤモンド社）

「私は私のままで生きることにした」（キム・スヒョン／著 ワニブックス）

「もしも徳川家康が総理大臣になったら」（眞邊 明人／著 サンマーク出版）

【高校生の部】

「生きるぼくら」（原田 マハ／著 徳間書店）**チャンプ本**

「もしも徳川家康が総理大臣になったら」（眞邊 明人／著 サンマーク出版）

準チャンプ本

「貴様いつまで女子でいるつもりだ問題」（ジェーン・スー／著 幻冬舎）

「ライオンのおやつ」（小川 糸／著 ポプラ社）

「本屋さんのダイアナ」（柚木 麻子／著 新潮社）

「嫌われる勇氣」（岸見 一郎・古賀 史健／著 ダイヤモンド社）

(3) 学校図書館

① 学校図書館の活性化支援

ア 学校訪問による読書活動支援

小・中・高等学校15校の学校図書館を訪問し、学習活動の支援の在り方や校内の推進体制について指導助言を行うとともに、特徴的な実践例の紹介や改善のための情報提供を行った。

イ 担当教職員等への研修による支援

小・中・高等学校の司書教諭や学校司書等を対象とした研修会に読書活動指導監等を派遣し、研修支援を行った。

② 県立図書館の学校図書館等への支援

ア 学校図書館の環境整備と研修機会の提供

学校図書館支援用の図書セット資料について、高等学校・特別支援学校の図書担当者からリクエストを受けて更新を行い、児童生徒の読書環境を整備した。

また、高等学校や特別支援学校を訪問し、学校図書館の図書整備や廃棄に関する相談、館内レイアウト、排架の仕方、図書館の運営に関して助言を行ったほか、学校図書館の図書委員同士の交流が進むよう情報交換の場面を設けるなど、学校図書館の活用が進むよう継続した支援を行った。

❖参考DATA

学校図書館への年間貸出冊数：(R3) 25, 480冊



▲学校図書館内の県立図書館コーナー



◀学校図書館職員等研修会

○開催状況(オンラインによる開催)

令和3年7月29日(木)

内容 「調べ方講座」

「読み聞かせ講座」

参加校の情報交換

参加者数 教職員・生徒合計58名

イ 図書館利用と読書への興味・関心を高める取組

コロナ禍のため、小・中・高・特別支援学校のセカンドスクールの利用※校数は例年より著しく少なかったが、児童生徒に対し、図書館の仕事や役割についての理解を深めるとともに、読書に対する関心を高める取組を行った。

なお、利用した生徒へのアンケートでは図書館の役割を理解することができてよかった、図書館の見学についてよい体験ができたという意見が多くみられた。

※セカンドスクールの利用

児童生徒が学校を離れた場所で、様々な自然体験や社会体験を行う授業で、図書館においては、図書館職員の仕事の体験を行う。

❖参考DATA

「セカンドスクールの利用等の取組に満足した」と答える児童・生徒・学生の割合
：(R3) 90.9%

「図書館の仕事・役割を理解した」と答える児童・生徒・学生の割合
：(R3) 90.9%



▲セカンドスクールの利用（職場体験・施設見学）▲

3 地域・職場における読書活動の推進

(1) 市町村

① 市町村立図書館等の機能の充実に向けた支援

ア 資料貸出や情報提供による支援

県立図書館の市町村立図書館等専用の図書セット資料を準備し、県子ども読書支援センターの資料と併せて貸し出すなどにより、住民の図書館利用や読書活動を支援した。

また、コロナ禍でも市町村立図書館等へ図書館運営やサービスに関する相談への助言等を行うため、オンライン会議システムを活用し、各自治体の中央館を中心に情報交換を行った。

❖参考DATA

市町村立図書館等の年間個人貸出冊数：(R3) 2,290,344冊

市町村立図書館等への年間貸出冊数：(R3) 17,385冊

市町村立図書館等の相談件数：(R3) 91件



▲セットを活用した
公民館図書室内の展示



▲市町村立図書館向けセット

イ 市町村立図書館等職員の育成

市町村立図書館等の職員を対象に、初任者や実務者向けなど対象者に応じた研修や、図書館の危機管理や著作権法改正のポイントに関する研修など、普段の業務に直ぐに生かせる内容の研修メニューを用意し、オンライン会議システムを活用して実施した。

❖参考DATA

「満足した」と答える参加者の割合：(R3) 96.3%



▲市町村立図書館等職員研修会（オンライン開催）▲

ウ 課題解決のための読書や図書館利用の促進

県立図書館や市町村立図書館等において、健康や介護、法律など生活や仕事に関する課題のほか地域課題の解決に向けた資料整備を行うとともに、関係機関のパンフレットを提供することなどにより、関連コーナーの充実を図った。

また、県内の市町村立図書館等に対し、他館で実施されている課題解決支援サービスについての情報提供を行った。

❖参考DATA

「取組を知っている」と答える利用者の割合：

(R3) ※利用者アンケートは令和4年度に実施予定（隔年実施）

「取組に満足している」と答える利用者の割合：

(R3) ※利用者アンケートは令和4年度に実施予定（隔年実施）

市町村立図書館等のサービス実施館数：(R3) 57館

県立図書館閲覧室内にある「地方創生コーナー」▶



② 「子ども読書の日」の周知と取組の推進

4月23日の「子ども読書の日」啓発ポスターを幼稚園や学校、社会教育施設等に配布して周知を図るとともに、各市町村に対し「子どもの読書週間」における子どもが読書に親しむイベントの実施を働きかけた。

2021年度「子ども読書の日」ポスター▶



❖参考DATA

実施市町村数と取組件数：(R3)調査中止

○子ども読書の日

「子どもの読書活動の推進に関する法律」で4月23日が「子ども読書の日」と定められている。

これは、シェイクスピア（英国）とセルバンテス（スペイン）の命日である4月23日をユネスコが「世界・本と著作権の日」と宣言していることにちなむ。

○サン・ジョルディの日

日本では出版関係団体が、4月23日を親しい人に本を贈る「サン・ジョルディの日」として呼び掛けている。

（サン・ジョルディはスペインの守護聖人名。カタルーニャ地方では命日に本の市が立ち、花と共に本を贈り合う習慣がある。）

(2) 民間団体

① 読書ボランティア等への支援

市町村図書館や学校図書館等において、読み聞かせ等を行うボランティアを養成するための研修を県内3地区で実施した。

各地域で活動している読み聞かせボランティアを講師に迎えることで、講座修了後の参加者の活動についてサポートできるようにした。

一般県民だけでなく、高校生63人の参加があり、幅広い世代が互いに学び合う機会となった。

○読み聞かせボランティア養成講座

地区	月 日	会 場	参加者数
県北	11月20日(土)	花輪市民センター	19名
	12月5日(日)	十和田市民センター	
中央	8月9日(月・休)・10日(火)	秋田県立図書館	32名
県南	8月3日(火)・5日(木)	横手市交流センターY ² ぷらざ	37名



▲県北地区



▲中央地区



▲県南地区

読み聞かせボランティア養成講座

② 読み聞かせ団体等への活動支援

県内の読み聞かせ団体等の活動を支援するため、県立図書館と県子ども読書支援センターからボランティア団体等へ資料を貸し出した。

❖参考DATA

県立図書館からボランティア団体等への資料貸出：(R3)598冊

県子ども読書支援センターからボランティア団体等への資料貸出：(R3)5,472冊



▲子ども読書支援センター資料の発送準備



▲様々な種類の読み聞かせ資料

4 関係機関等との協働による読書活動の推進

(1) 秋田県読書活動推進連絡協議会の充実

「秋田県読書活動推進連絡協議会」の全体会と地区会議を開催し、県民の読書環境の充実に向けた意見交換や優良事例の共有を行い、地域における読書環境の充実に取り組んだ。

令和3年度秋田県読書活動推進連絡協議会の活動

○全体会と県内3地区の地区会議を開催

全体会 令和3年5月27日(木) 書面開催

地区会議 県央地区 令和3年10月26日(火) オンライン開催

県北地区 令和3年11月4日(木) オンライン開催

県南地区 令和3年11月4日(木) オンライン開催

○役員

会長 総合政策課長

副会長 県北地区 三種町教育委員会次長

県央地区 男鹿市企画政策課長

県南地区 湯沢市生涯学習課長

※任期2年

○構成

市町村 企画担当課長／教育委員会読書活動推進担当課長

県 総合政策課長／教育庁総務課長・生涯学習課長

(2) 視覚障害者等の読書環境の整備の推進

① 視覚障害者等の図書館利用に係る体制の整備

図書館内の読書バリアフリー環境を進めるため、マルチメディアデージー図書※や点字資料などを整備し関連資料の充実を図った。

さらに、利用者区分に新しく視覚障害者等の区分を新設し、利用条件が限られているマルチメディアデージー図書を利用できるようにしたほか、閲覧室内に視聴ブースを設置、利用者カードの各種申込について郵送での受付を開始するなどサービスの改善に努めた。

※デージー図書

デージー（DAISY）とは、「Digital Accessible Information System」の略で、デジタル録音図書の国際標準規格のこと。デージー図書は、通常の印刷物を読むことが困難な視覚障害者等を対象に、カセットテープに代わるものとして、この規格により開発されたデジタル録音図書。

❖参考DATA

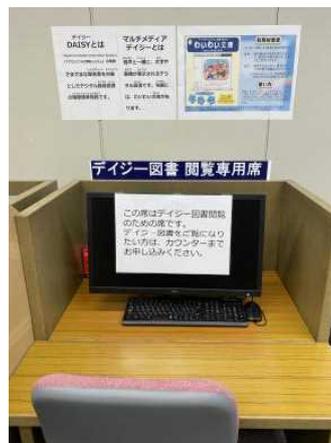
「障害者サービスを知っている」と答える利用者の割合

：※利用者アンケートは令和4年度に実施予定（隔年実施）

障害者サービス利用登録者数：（R3）0人



▲県立図書館閲覧室内のバリアフリーコーナー



▲デージー図書を閲覧するための専用席

② 視覚障害者等の秋田県点字図書館の利用に係る体制の整備

障がい者の読書機会の充実を目指して、秋田県点字図書館においてボランティアを中心に点字図書や音声図書等の製作を行い、視覚障がい者への図書提供サービスの向上に努めた。

○製作	点字図書	：	5 3 3	タイトル
	音声図書	：	1 5 1	タイトル
○貸出し	点字図書	：	1, 4 9 0	タイトル
	音声図書	：	8, 0 4 9	タイトル
	定期刊行物	：	1 0, 0 2 8	タイトル

(3) 大学図書館と県立図書館の連携強化

県立図書館と相互協力協定を締結している大学図書館（秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学）との間で、各館の所蔵資料を利用者が活用できるよう、相互貸借を推進した。

また、各施設の情報や最新の話題等を共有できるよう、令和3年度の事業や取組等を書面にまとめ、情報交換を行った。

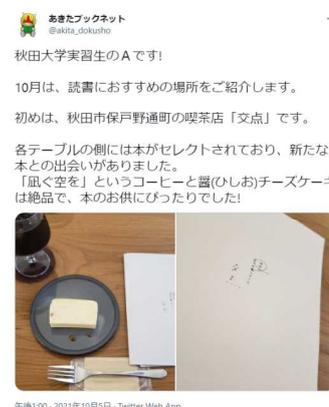
❖参考DATA

大学図書館との相互貸借の年間貸出冊数：（R3）193冊

大学図書館との相互貸借の年間借受冊数：（R3）50冊

(4) 県内の大学等との連携

大学生の読書への興味・関心を高めるため、秋田大学と連携し、Twitterを活用して学生による読書活動の普及啓発を行った。



大学生によるTwitterを活用した情報発信▶

(5) 外部機関等と連携した図書館利用促進

県立図書館の情報提供機能を一層充実させるため、県の関係機関等と連携した展示等を行った。

また、県立図書館の所蔵する資料が、県立図書館以外でも利用できるよう連携先の団体へ貸出を行い、県立図書館コーナーの設置や定期的な図書展示等を行った。

❖参考DATA

外部機関等への貸出冊数：（R3）3,562冊

イベントの開催回数：（R3）37回



▲埋蔵文化財センターと連携した特別展示



▲秋田県議会図書室内での定期的な県立図書館資料展示

(6) 「県民読書の日」の啓発

県民の読書に親しむ気運を高めるため、11月1日の「県民読書の日」記念事業として創設された「ふるさと秋田文学賞」の募集や入賞作品集を刊行した。

また、過去の受賞作品の映像作品を制作・配信し、本以外のメディアの活用により県民の読書意欲を喚起した。

第8回「ふるさと秋田文学賞」

○受賞作品

【小説の部】

《ふるさと秋田文学賞》

山椒と虹

渡部 麻実 (神奈川県横浜市)

《同 佳作》

停戦旅行

畠山 政文 (岩手県花巻市)

【エッセイ・紀行文の部】

《ふるさと秋田文学賞》

大地と共に我ら生き

石原 敏子 (秋田県大潟村)

《同 佳作》

廢屋の月

工藤 幸 (秋田県小坂町)

～矢口高雄さんを偲んで～

○応募状況

- ・応募作品数 127点 (小説61点 エッセイ・紀行文66点)
- ・県内49点 県外78点

❖参考DATA

「県民読書の日」を知っていると答える参加者の割合：(R3) イベント開催なし



▲第8回ふるさと秋田文学賞受賞作品集



▲過去の受賞作品を映像化して配信

(7) 「秋田県読書フェスタ」の開催

11月1日の「県民読書の日」を含む10月16日(土)から11月3日(水・祝)までの約2週間を「秋田県読書フェスタ」期間とし、県主催事業として中学生・高校生ビブリオバトル大会等を開催した。

そのほか、市町村の図書館・公民館等では子どもから大人まで幅広い世代の県民が読書に親しむ機会を持てるよう、大人のためのおはなし会や図書展示、図書館スタンプラリーなど様々な読書イベントが行われた。

❖参考DATA

実施市町村数と取組件数：(R3) 20市町村169件

(8) 県民の寄贈によるリサイクル文庫の普及



子どもたちの身近な場所での読書環境づくりや、大人の読み聞かせを進めるため、県民から寄贈された絵本や児童書を手入れした上で、配付を希望する保育所や児童クラブ等へ届け、読書の楽しさをリレーする取組を行った。

❖参考DATA

リサイクル文庫の設置先数(累計)：(R3) 894か所

◀「読んだタッチ・リレー文庫」のポスター

(9) 高齢者への読書活動推奨

イベント等で予定していた大活字本等の紹介は、新型コロナウイルス感染症の影響による中止・縮小に伴い紹介を行うことが難しかったが、Twitterを活用して周知を行った。

❖参考DATA

「1日平均30分以上読書をしている」と答える70歳以上の割合：(R3) 52.8%

(10) 書店団体等と連携した読書活動の推進

秋田県書店商業組合と連携して、県出身作家等のサイン本などをプレゼントする「冬はほっこり。県民読書推進キャンペーン2022」をTwitterを活用して実施し、県民の読書活動を推進した。



▲冬はほっこり。県民読書推進キャンペーン2022

(11) 雑誌スポンサー制度の充実

民間企業等が雑誌スポンサー※となって、県立図書館や市町村立図書館へ雑誌の提供を行い、雑誌コーナーの充実を図った。

県立図書館では寄贈雑誌のカバーでの広告のほかに、スポンサー企業がチラシ等自社の広報用資料を置くことができるコーナーの設置や、各企業の専門的な知識を生かし、図書館資料選定の協力を得て、選定図書との連携展示等を行った。

※雑誌スポンサー

図書館の雑誌に民間企業等の情報発信を組み込み、雑誌コーナーの充実を図ることを目的とした雑誌寄贈の制度。選書は図書館で行い、スポンサー企業は購入費を負担する。対象となる雑誌に専用カバーを取り付け、スポンサーとなっている企業名や広告を表示するなどの方法で、企業活動を図書館利用者に周知することができる。

❖参考DATA

公立図書館（県立図書館・市町村立図書館等）のスポンサー企業数：（R3）70企業



▲雑誌スポンサー紹介コーナー



◀雑誌スポンサーに
選定協力を得て行った
資料展示

5 指標・実績一覧

	施策	指標	R2基準値	R3実績値	R7目標値	ページ
1	各世代に対応した読書環境の整備	県立図書館の年間購入冊数	(R元) 14,063冊	15,116冊	15,000冊	3
2		県立図書館の新規登録者数	(R元) 2,067人	2,304人	2,300人	3
3		県立図書館の年間個人貸出冊数	(R元) 361,658冊	378,795冊	400,000冊	3
4	県民の読書ニーズに対応できるサービス機能の強化	「レファレンス・サービスを知っている」と答える利用者の割合	(R元) 53.1%	隔年調査	60.0%	3
5		「レファレンス・サービスに満足している」と答える利用者の割合	(R元) 84.0%	隔年調査	90.0%	4
6	秋田県立図書館デジタルアーカイブの活用促進	登録データ数	(R元) 605,687件	611,992件	615,000件	4
7		閲覧件数	(R元) 33,557件	25,450件	40,000件	4
8	ウェブサイトやSNSを活用した情報発信	県立図書館ウェブサイトのアクセス数	(R元) 235,195件	241,585件	270,000件	4
9		県立図書館Facebookページのフォロワー数	(R元) 118人	152人	500人	4
10	子どもの読書習慣づくり	読書相談件数	(R元) 332件	133件	350件	5
11		おはなし会実施回数	(R元) 23回	3回	24回	5
12		おはなし会参加人数	(R元) 663人	31人	720人	5
13	児童会館での子どもの読書活動の推進	県子ども読書支援センターから県児童会館図書室への資料貸出冊数	(R元) 593冊	699冊	1,000冊	6
14	高齢者などへの読書支援	電話(対面)朗読ボランティア活用者数	(R元) 22人	6人	50人	7
15	「あきたブックネット」による情報発信	Twitter「あきたブックネット」のアクセス数	(R元) 1,510,644件	829,910件	2,100,000件	7
家庭における読書活動の推進 小計15項目						
16	幼稚園・保育所・認定こども園等における読み聞かせの推奨	新規採用者研修受講者の肯定的評価	90.0%	90.0%	93.0%	8
17	小・中学校における取組	「読書が好き」と答える児童の割合(小学校6年生)	(R元) 82.0%	80.6%	82.0%	8
18		「読書が好き」と答える生徒の割合(中学校3年生)	(R元) 76.6%	調査中止	80.0%	-
19		週に1回以上学校図書館等に行く児童の割合(小学校6年生)	(R元) 23.9%	16.1%	30.0%	8
20		週に1回以上学校図書館等に行く生徒の割合(中学校3年生)	(R元) 7.6%	調査中止	20.0%	-

	施 策	指 標	R2基準値	R3実績値	R7目標値	ページ
21	高等学校における取組	1か月に1回以上学校図書館を利用する生徒の割合	20.1%	19.4%	40.0%	8
22		1か月に本を1冊以上読む生徒の割合	61.4%	56.6%	70.0%	8
23	特別支援学校における取組	校内の読書環境の整備と改善に毎月取り組んでいる学校の割合	(R元) 73.0%	86.7%	95.0%	9
24		図書を活用した他の学校や地域の人々との交流により、本に親しんだ幼児・児童・生徒の割合	(R元) 60.0%	30.0%	95.0%	9
25	学校図書館の環境整備と研修機会の提供	学校図書館への年間貸出冊数	(R元) 18,169冊	25,480冊	20,000冊	11
26	図書館利用と読書への興味・関心を高める取組	「セカンドスクールの利用等の取組に満足した」と答える児童・生徒・学生の割合	(R元) 90.2%	90.9%	100.0%	12
27		「図書館の仕事・役割を理解した」と答える児童・生徒・学生の割合	(R元) 100.0%	90.9%	100.0%	12
学校における読書活動の推進 小計12項目						
28	資料貸出や情報提供による支援	市町村立図書館等の年間個人貸出冊数	(R元) 2,371,796冊	2,290,344冊	2,500,000冊	12
29		市町村立図書館等への年間貸出冊数	(R元) 21,319冊	17,385冊	23,000冊	12
30		市町村立図書館等の相談件数	(R元) 125件	91件	220件	12
31	市町村立図書館等職員の育成	「満足した」と答える参加者の割合	(R元) 98.3%	96.3%	100.0%	13
32	課題解決のための読書や図書館利用の促進	「取組を知っている」と答える利用者の割合	(R元) 65.5%	隔年調査	80.0%	13
33		「取組に満足している」と答える利用者の割合	(R元) 64.0%	隔年調査	80.0%	13
34		市町村立図書館等のサービス実施館数	(R元) 56館	57館	60館	13
35	「子ども読書の日」の周知と取組の推進	実施市町村数と取組件数	25市町村 176件	調査中止	25市町村 200件	14
36	読み聞かせ団体等への活動支援	県立図書館からボランティア団体等への資料貸出	(R元) 713冊	598冊	800冊	15
37		県子ども読書支援センターからボランティア団体等への資料貸出	(R元) 5,648冊	5,472冊	6,000冊	15
38	企業内文庫の普及啓発	「1日平均30分以上読書をしている」と答える20～60歳代の割合	40.7%	41.8%	70.0%	-
地域・職場における読書活動の推進 小計11項目						

	施 策	指 標	R2基準値	R3実績値	R7目標値	ページ
39	視覚障害者等の図書館利用に係る体制の整備	「障害者サービスを知っている」と答える利用者の割合	-	隔年調査	50.0%	16
40		障害者サービス利用登録者数(累計)	-	0人	50人	16
41	視覚障害者等の秋田県点字図書館の利用に係る体制の整備	図書の製作数	(R元) 294タイトル	684タイトル	350タイトル	16
42		図書の貸出数	(R元) 7,408タイトル	9,539タイトル	7,700タイトル	16
43	大学図書館と県立図書館の連携強化	大学図書館との相互貸借の年間貸出冊数	(R元) 303冊	193冊	350冊	17
44		大学図書館との相互貸借の年間借受冊数	(R元) 52冊	50冊	60冊	17
45	外部機関等と連携した図書館利用促進	外部機関等への貸出冊数	(R元) 1,388冊	3,562冊	1,500冊	17
46		イベントの開催回数	(R元) 61回	37回	60回	17
47	「県民読書の日」の啓発	「県民読書の日」を知っていると答える参加者の割合	(R元) 84.8%	イベントなし	90.0%	18
48	「秋田県読書フェスタ」の開催	実施市町村数と取組件数	21市町村 197件	20市町村 169件	25市町村 200件	18
49	県民の寄贈によるリサイクル文庫の普及	リサイクル文庫の設置先数(累計)	(R元) 853か所	894か所	1,050か所	19
50	高齢者への読書活動推奨	「1日平均30分以上読書をしている」と答える70歳以上の割合	56.6%	52.8%	70.0%	19
51	雑誌スポンサー制度の充実	公立図書館(県立図書館・市町村立図書館等)のスポンサー企業数	(R元) 80企業	70企業	90企業	20
関係機関等との協働による読書活動の推進 小計13項目						



© 2015 秋田県んだッチ